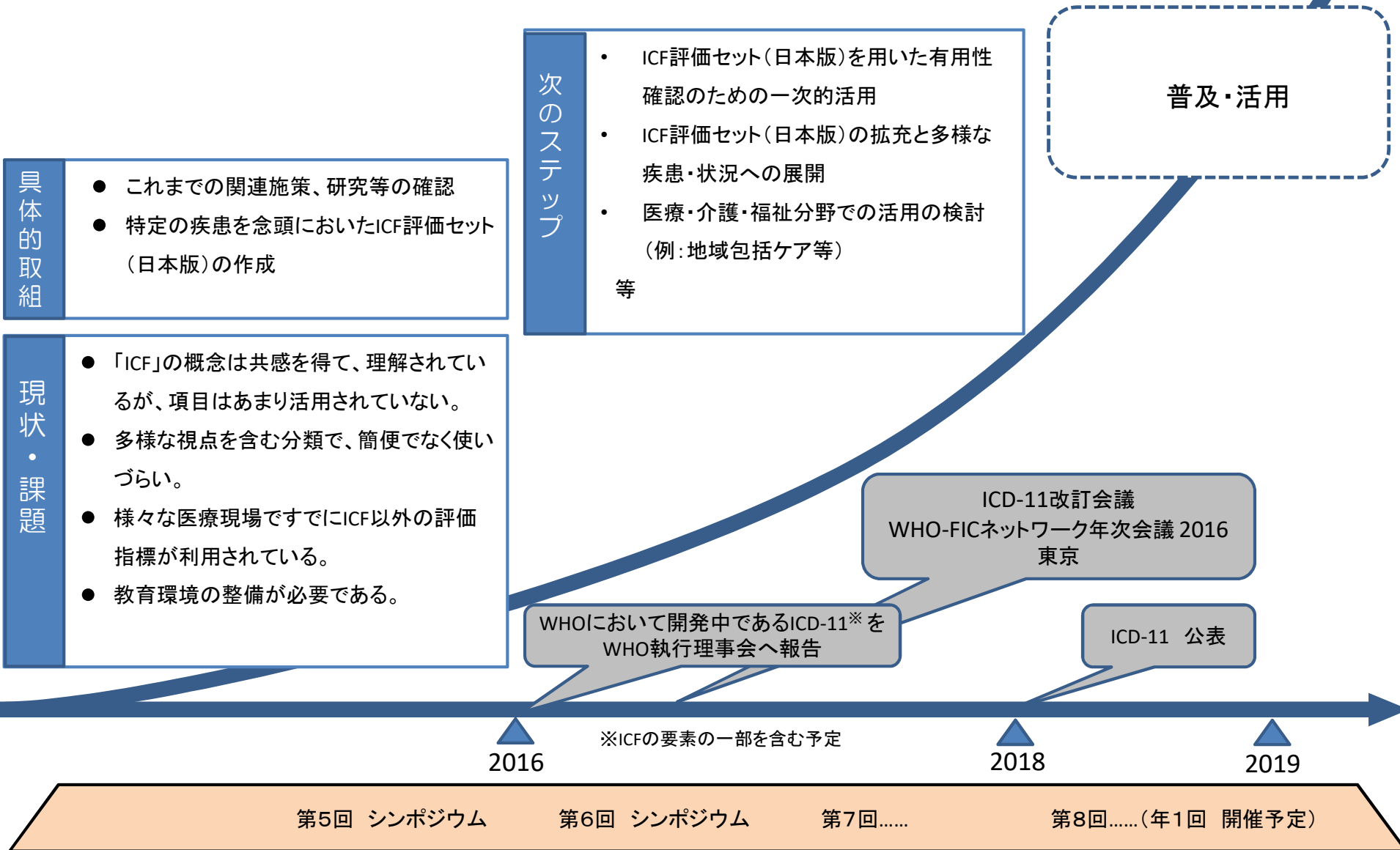


普及・活用に向けたイメージ図



※ICFの心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子等それぞれの側面のバランスをもって進める。
 ※状態を把握しやすい入院患者や、専門職の多い環境など、ICFを活用しやすい医療現場から進める。



具体的取組

- これまでの関連施策、研究等の確認
- 特定の疾患を念頭においたICF評価セット（日本版）の作成

次のステップ

- ICF評価セット（日本版）を用いた有用性確認のための一次的活用
- ICF評価セット（日本版）の拡充と多様な疾患・状況への展開
- 医療・介護・福祉分野での活用の検討（例：地域包括ケア等）等

現状・課題

- 「ICF」の概念は共感を得て、理解されているが、項目はあまり活用されていない。
- 多様な視点を含む分類で、簡便でなく使いづらい。
- 様々な医療現場ですでにICF以外の評価指標が利用されている。
- 教育環境の整備が必要である。

WHOにおいて開発中であるICD-11※をWHO執行理事会へ報告

ICD-11改訂会議
WHO-FICネットワーク年次会議 2016
東京

ICD-11 公表

2016 ※ICFの要素の一部を含む予定 2018 2019

第5回 シンポジウム 第6回 シンポジウム 第7回..... 第8回.....(年1回 開催予定)

参考資料 2